

住職インタビュー写真 @本堂or応接室

①ヨコ写真／真顔と笑顔

②ヨコ写真／住職プロフ撮影ください



は、長谷川の強まない努力と、目の前の
人と向き合う真摯な心があるのではない
だろうか。

主な取り組み

ヨコ正統教育

- 『自らを通じて美しい心を育てる』こ
とを趣旨に音楽・リズム教育
- 子ども達の可能性を開く正統体育
育教室
- キッズダンス・サーカスを軸にした正
統英語教育
- HIPHOPを取り入れた正統ダンス
教育

**全てのの人に佛さまの智慧と慈悲
を～著名人も訪れる破岩寺**

長谷川は誰のために活動をしているの
か？どのような人と関わってきたのか？
そんな問いかけに、こう語ってくれた。
「誰のため」というのは特になんで
す。ターゲットというの考えたことがあ
りません。
お寺の理念は『すべての人に佛さまの
智慧と慈悲を』。つまり、慈悲・利他・同
仁です。
自分が幸せになることは他人の幸せに
もつながり、他人の幸せが自分の幸せに
もつながります。
対象とする人をあえて決めないことで、
いろんな人がやって来る。すると、お寺の
空気が入れ替わっていくのだという。
そんな破岩寺には、多くの著名人が来
寺して、コンサートや法談会を開催して

いる。(※著名人紹介(一部抜粋)：鳥飼
俊太郎さん、水谷修さん(変回先生)米
良美一さん、他多数)
このような著名人を招いて、コンサー
トや法談会ができるのはなぜだろうか？
質問を投げかけたところ、破岩寺に「簡単
ですよ！呼べばいいんです(笑)」との返答
が返ってきた。
しかし、呼んだところですぐに来てくれ
るものだろうか？
「好き！好き！光臨を送るんです。人は、
好き！好き！光臨には勝てません。まず手
紙を書いて、喜書と一緒に送っています。
するとほとんどの人が来てくれるんです。
お寺に著名人が来ることで、お寺の価
値が上がり評判は良くなる。そして何よ
り一番は、信者さんたちが喜んでくれる
という。」
お訪さんになった経歴



～ハワイでのこと
小さな頃からお寺を離れというプレッ
シャーはなく、祖父も優しい人ではなかつ
た。
駒澤大学仏教学部卒業後は、福井県
の永平寺で3年余り修行していた長谷
川。お訪さんになると決めたキッカケは
永平寺の修行で出会った僧侶に惹かれ
たからだと言う。
素晴らしい人徳を持つ人に出会うとい
う、大きなものを得た長谷川だが、修行
を通じて得たことはもう一つある。
「永平寺にいたと、五感が研ぎ澄まし
られるんです。座禅をしていると、鳥の鳴
き声、川のせせらぎ、杉の葉が落ちる音、
それしか聞こえなくなるんです。なんども
それを積み重ねていくと、雑音の音が消
える音までわかるようになりました。」
生きていくと、情報や悩みや思いが多
く、聞こえていないものも見えないもの
が多い。すべてを削ぎ落とすことで「これ
でいいんだ」と思えるようになったという。
その後は、東京・東久留米のお寺を継

て、ハワイのパーマー・パーのお寺へ
赴任した。
ハワイで開教師として活動する傍ら、
日本語学校の校長や各種文化クラブ
（お茶・茶道・剣道・空手・カポエラ
道）を主催。
7年半ハワイで住職として過ごした
後、東京の都合で日本へ帰国した。
「海外へ行って良かったと思うのは、
日本の良さを体感できたことですね。
海外にいても、日本のお訪さんがいか
に恵まれているのかが分かります。日
本人ですから、英語もやはり日本語の
方がやりやすいですね。」

現在の活動と今後について
「僕ね、今度、温泉を築るんですよ」
しれっと語る長谷川に、衝撃を受けた。
お寺に温泉を築り、グループホームにし
たいと語る長谷川。今までは、すべて別々
の施設として作っていたが、一つにまと
めることで皆の良いところが出る。「お寺
に行けば何とかなる、仲間もいる、生活

SAMPLE

Buddhist Temple Interview 01

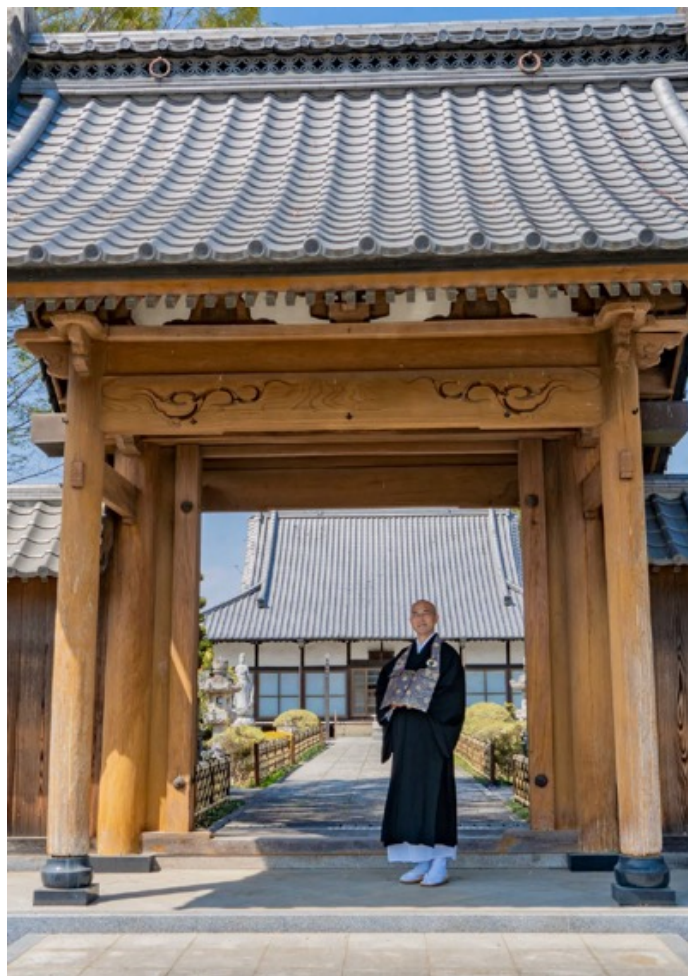
もできる」そのような場を作りたいと言
う。
「コンセプトは『ごちゃ混ぜ』。障害者福
祉・保育園・介護・特別養護老人ホーム
（特養）・サービス付き高齢者向け住宅・
訪問看護の施設など、お寺に生活経済
圏を作ろうと思っています。多様な人と
みんなが集まって、お寺を交流できる場
にします。
行政は税金があればやりますが、特別
扱いできない職種でもあります。しかしお
訪さんは、お寺に集まる人すべてを特別良
いできます。お訪さんにしかできないこと
は絶対あります」
お寺は思いやりとやさしさに溢れる場所
ではない。自分では生かされていることに気
づく場所。お寺に集まる人々が集って、い
ろんな出会いに感謝し、笑顔になれるよ
うな場所にしたい。
「誰か孤獨にさせない」という長谷川
は、育児に悩めるお母さんや子育てで疲
れを感ずるお父さんに「ちょっと休んでいき
ませんか？」という場所を伝えてあげたいと
いう。
(インタビュー)
DIALOGUE TEMPLE 編集長 山田正明

※使用イメージ

③住職のワンショット／真正面から全身で撮影

@本堂

タテ写真／本堂外観と僧侶



SAMPLE

Reverend
Interview
01

園児に向き合い、 保育園再建を実現

～保育園経営者として活躍する僧侶とは～

曹洞宗瑞岩寺 | 長谷川 俊道

開教師として、ハワイで7年半住職活動する傍ら、日本語学校の校長、各種文化クラブ（お茶・書道・剣道・空手・カラオケ教室）を主催。帰国後は、瑞岩寺で副住職に就任するも、その傍らで保育園経営に着手。能動的な行動力があり、生身の人間に喜んでもらうため、しっかりと目の前にいる人間と向き合う僧侶がいる。

「保育園経営もそうですが、園児に向き合う。生身の人間に喜んでもらうことを常に意識しています」

そう語るのが、今回紹介する長谷川俊道（はせがわ しゅんどう）だ。お寺のHPを覗いてみると、「すべての人に佛さまの智慧と慈悲を」という理念が書かれている。

「誰のための活動というのは特にないんですよ。ご縁のある人すべてに向けて、自らを幸せに、周りの人を幸せに、もし

て円満に」そう語る長谷川俊道。
「仏教は生きるためのツールなんです」
そう語る彼は、どのような活動をし、どのような人間性を持つ僧侶なのだろうか？

.....

保育園経営をする僧侶 ～園児に向き合う経営方法とは～

開教師として7年半、ハワイで過ごした後、日本に帰国した長谷川俊道は、実家の瑞岩寺で副住職として就任したが、保育園の経営状況の悪さに驚愕したという。

元から経営に興味があった長谷川は、保育園再建に向けデコ入れを開始した。「インターネットで目についた保育園が、ISO9001を取っていたんですよ。す

ぐさま連絡を取り合いに行き、やり方を教えてもらいました。

それを投入し、「顧客満足度、従業員満足度を上げましょう。園児を増やして収入を増やしましょう」としたところ、今では顧客満足度が95%まで上昇しました（当初は56%だった）。

長谷川が経営再建のデコ入れをする前、経営状況が悪かった頃は「いかに補助金をもらおうか」と、お役人の方を向いて経営をしていた。補助金をもらうため、お役所の言うことばかりを聞くのではなく、目の前の園児に真摯に向き合い顧客満足度を上げることを優先した。

TVでヨミミネ式教育についての放送を見た長谷川は、興味を持ち鹿児島県まで見に行ったという。

子供達にとって良いもの、効果的なものを取り入れ、保育園の改善を積極的に行う。顧客満足度が向上した背景に

※使用イメージ

④寺院外観



⑤寺院内施設／対象は当日指示します

